

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

【概要】

本プログラムは、総長のリーダーシップのもと、多文化共生に関係する部局を横断した大阪大学の知的リソースと幅広い産学官との連携とを総合して、次世代をリードする若手研究者・実践家が、各自のコアとなる高度で先端的な専攻別の博士学位研究を高めると同時に、グローバル化の進む今日の世界の中で、俯瞰的・独創的な観点と他者に対する深い理解に基づく敬意 (respect) に立脚し、多様で異なる背景や属性を有する人々が互いを高め合い、共通の未来に向けた斬新な共生モデルを具体的に創案・実施できるダイナミックな知識・技能・態度・行動力を持つ、いわば「未来共生イノベーター」となるべき人材の養成を目指す。本事業を「RESPECT (Revitalizing and Enriching Society through Pluralism, Equity and Cultural Transformation) プロジェクト」と称する所以である。さらに、本プログラムでは、人々が、未来志向で、互いに幸福を分かち合える共生社会への変革の道筋をダイナミックに研究する新たな学問体系としての「未来共生学」という学際複合的な学問領域の創成を目指す。

地球規模での相互結合性の拡大や情報通信技術の発展、国境を越える人口移動は、グローバルなレベルでの異文化間の接触を確実に加速化させ、また、今後のデモグラフィック・バランスの遷移(たとえば、アジアの少子高齢化やアフリカの若年層人口の膨張など)や民族構成の変化は、国内ないしローカルなコミュニティの多文化性に大きく影響することになる。多文化共生の推進は、日常生活(医療現場や都市計画を含む)のなかはもとより、大規模災害や紛争や差別や人権抑圧といった危機的な事態への取り組みや、危機からの復興・和解・平和構築の過程では極めて重要な課題といえる。こうした中、専門分野における先端的なクオリティの高い研究能力に加え、人々が国籍、民族、言語、宗教、性差、世代差、病・障害歴等を含む、人々のアイデンティティの多元性を互いに認め合い、対等な関係を築きながら、よりよい未来の共生社会の形成への変革をリードする力量(知識・技能・態度・行動力)を備えた人材の育成は急務といえる。

【特色】

本プログラムでは、選り抜かれた大学院生が、5年一貫で、本来の専門分野における質の高い博士の学位研究に並行して「未来共生イノベーション」を学修する、実質的な「ダブル・メジャー」教育を行う。広く定義された「多文化性」の相互尊重の多角的な研究に取り組む修了者は、研ぎ澄まされた「多文化コンピテンシー」を持つリーダーとして、多文化共生分野の最先端の研究者はもとより、人文・社会科学・医学・工学等の各分野の研究者や、日本を含む各国の政府・議会、地方自治体、国際機関、グローバル企業、メディア、学校教育、国際協力機関、NGO等で、俯瞰的・独創的立場から「未来共生」をリードする役割が期待される。

履修学生は、総長直轄の大阪大学未来戦略機構のもとに新設される「未来共生イノベーション」部門に所属し、特別に編成された「アカデミックワーク」、「プラクティカルワーク」、「リサーチワーク」の3本立てのカリキュラムを通じ、「多文化コンピテンシー」を構成する6つのリテラシー(多言語、フィールド、グローバル、調査、政策、コミュニケーション)を涵養する。各個人に対しては、研究テーマに合わせ、研究科の枠を超えた論文指導体制を組み、複数言語の運用能力の修得、海外インターンシップや国内フィールドワーク、文理横断のプロジェクト型ラーニングなどが課される。さらに、学生生活面では、留学生と日本人学生がペアになる「バディ制」や学年を超えて学生同士が相互に学び合う「ピア・チュータリング制」を導入する。

本事業を通じて特に解決すべき課題としては、日本と世界におけるマイノリティ問題への対応、紛争解決・和解・平和構築の促進、災害などの危機における多文化・多言語対応、グローバルな健康医療・公衆衛生分野の革新、多文化配慮のウェルネス重視のまちづくりの促進などが含まれる。

【優位性】

大阪大学では、人間科学研究科(人類学、教育学、社会学、心理学、地域研究)、国際公共政策研究科(国際政治・法・経済学を統合した国際公共政策学)、言語文化研究科(言語学、外国文化研究、及び旧大阪外国語大学のリソースによる25言語教育)を中心に、各研究科の持ち味を生かした多文化共生分野の多様な研究実績があり、人材を輩出している。大阪という立地に由来する人権教育や外国人政策の研究、阪神・淡路大震災や東日本大震災等の大規模災害時の多文化・多言語対応の研究や実践から、世界各地の紛争や和解の分析や復興・平和構築、開発支援の政策研究等まで、現場重視・人間重視の実績がある。加えて本学には、部局横断の全学教育推進機構による教育サポート体制(体験型学習、海外留学支援、コミュニケーション・デザイン科目等の提供)があり、さらに、稲盛財団寄附講座に代表される多くの外部団体からの寄附講座の導入実績がある。これらは「未来共生イノベーション」事業のスタート時点で基盤的な優位性があることを示しており、今回、総長のリーダーシップのもと、未来戦略機構の一部門として、医学系・工学の両理系部局や法・文・経の文系部局、附属病院と総合学術博物館という学内施設からのインプットを統合し、さらに学外からも「未来共生イノベーター」育成と「未来共生学」の創設という趣旨に賛同する産官学の有識者・実務者・機関のネットワークを通じた協力体制が可能となった。以上から、本学には本事業の運営・実施と学生のキャリアパス支援及び補助期間終了後の継続体制も含め、明らかな優位性があると確信する。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

